

令和2年度NPO活動推進補助金 活動報告書

事業名	新型コロナウイルス自宅療養者向け買い物代行支援
団体名	特定非営利活動法人 YNF
法人設立年月	平成30年7月
団体の目的	災害における被災者に対して、一人一人に寄り添った支援活動に関する事業を行い、また超高齢化社会における共生社会づくりを通して、新たな防災の形を推進していくことで社会全体に寄与することを目的とする。
主な活動	<p>①被災者の生活再建に関わる支援事業</p> <p>②災害救援や、市民活動などを題材にした講演等の事業</p> <p>③まちづくりにおける災害支援に関する啓発、人材交流、情報ネットワーク促進事業</p> <p>④ICT を活用した災害支援に関する事業</p> <p>⑤被災地等における雇用機会の拡充を支援する事業</p> <p>⑥その他当法人の目的を達成するに必要な事業</p>
補助事業の概要	<p>(事業を実施した背景、事業内容、成果、次年度以降の展望)</p> <p>(背景)</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大により自宅療養を余儀なくされる方々が増加しており、その方々や濃厚接触による自宅待機者に対し生活支援が必要なのではないかと考えたため。</p> <p>(事業内容)</p> <p>当団体のHPや報道等を通し、周知することでニーズを拾い、電話にて要望を聞き、買い物代行を行った。</p> <p>(事業を通して解決した(改善に向かった)課題, 対象者に見られた変化等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所の稼働状況から、当初は直接連絡を取ることを避け、マスコミに周知の協力依頼を行い、市民への周知を行う方針を取った。西日本新聞、NHK、RKB、KBC、TVQから協力を得られた。 ・当初、どれほどのニーズがでてくるのか不透明な部分があったため、福岡市西区限定としていたが、状況を見て(対象は西区のみですかとの問い合わせが多かった)対象を福岡市全域に広げた。実際の利用者は西区在住の1名となった。利用者からは、お金もおろしに行けずに困っているという声を聞いた。 ・福岡市新型コロナ対策室や福岡市社協にご協力いただき、福岡市各区の企画振興課や各区社協にチラシを持ち込み、事業の広報を依頼。 <p>東区社協の方からは、利用希望者ではないが、コロナで今仕事がないので、こういったボランティアに参加したいとの声があったとお聞きした。また、「個人的な事情でマスクをつけることが難しく、批判が怖いので今外にいけない。外に出るのは一カ月に一度の通院時のみで、その際に併せて買い物をしている。こういったサービスがあるのはとてもいいと思う」という方もいらっしゃった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業後半に、博多保健所の方からホテル療養の方も利用できるのかという問い合わせ

	<p>せがあったため、オンライン決済で対応することとしたが、事業の残り日数が少なかったのと、ホテル療養の窓口が県の管轄となっていたこともあり周知が進まなかった。</p> <ul style="list-style-type: none">・事業中盤に、各区保健所に対して状況のヒアリングを実施した所、現時点ではニーズが落ち着いてきていること、12月の終わりから1月にかけてであれば、多くのニーズがあったかもしれないという意見を頂いた。
--	---

補足(1) 上記項目を満たしていれば、本様式以外を使用しても構いません。別紙記載例を参照してください。パワーポイント等で作成される場合は、10ページ以内とします。

(2) 活動写真を2、3枚程度添付してください。

(3) この報告書は、市ホームページに掲載するとともに、寄付者に送付している活動報告書を作成する際に活用させていただきます。